

1月14日・15日と大学入学共通テストが行われました。本校の受験生は兵庫教育大学が受験会場でしたので、朝早くから3年学年団、進路指導部の先生方が駆けつけ、最後の激励をしました。注意看板を確認しつつ、緊張した面持ちで受験する建物に入っていく姿を見ていると40年以上前のことではありますが自分の時のことを思い出しました。2日間力を出し切ってくれたものと思います。16日には自己採点。これを受けて国公立大学の受験校が決



定します。16日からの週は卒業考査、課題研究発表会もあり、登校最後の週はなかなか大変ですが、まじめをしっかりとってください。また私立大学に挑戦する人は1月末からの受験を控えてラストスパートです。体調に気をつけて頑張りましょう。

1月17日は28年前阪神淡路大震災が起きた日です。朝のSHRで追悼行事としての校長講話と黙祷を行いました。兵庫県にとっては特別な日です。しかしながら震災経験のない世代も多くなり、語り継ぐことと防災減災を進めていくことの課題が浮き彫りとなっているのも事実です。備えることも大事ですが、知っておくことも大事だと思います。毎年この時期に書いていますが、この日が近づくと当時の修学旅行のことや避難所対応のことが思い出されます。修学旅行に行っていて家族が亡くなっている生徒もいました。その生徒には当分話しかけられず、見守ることしかできませんでした。家が潰れて学校に避難してきている生徒は陸上部の生徒でしたが、明るく振る舞ってはいましたが、心には大きな傷を負っていたと思います。当事者でないとは分からないこともあり、気軽に声をかけられないというのが当時若かった頃の自分でした。生徒に対して何もできず、避難所対応が日々のすべてで学校の授業すらまともにできない中、4月に入ると仮設校舎がグラウンドに立ち並びいきなりすべての授業が始まるという感じに生徒は戸惑ったと思います。当時3年担任となった私は陸上部の試合のことで最後の試合をどう迎えさせるか、クラスの生徒の進路は、勉強の出来具合はなど気になることばかりで複雑な気持ちのまま日々を過ごしていたように思います。それでも生徒たちが前を向けるように時折きつい言葉も発しながら「できる事を一生懸命する」ということだけは言い続けました。生徒たちは限られた空間、限られた時間の中で精一杯活動、勉強し、驚くべき成果を上げてくれました。陸上部では走る場所もない中、神戸から尼崎まで週3日練習に通いました。400mHで全国4位の成績を残し、駅伝では久しぶりの県大会出場を果たし、気持ちの大切さと環境に負けない心の強さを生徒から学びました。3年生の進路は私立大学を10校も受験してすべて失敗したのに第1希望の国公立だけ合格する生徒の粘り強さに驚かされ、逆境に立ち向かうことの、またその環境から逃げないことの、そしてすべてを受け入れて頑張ることの大切さを教えられました。その経験から私は部報や学級通信を作り始め、今こうして「校長室から」を発行させていただくに至っています。1月17日という日を兵庫県に関わった人間として忘れることなく、皆さんにも当時の様子を知った上でまちづくりを考えたり、災害に強い地域にしたりして欲しいですし、災害で困る地域があれば足を運んで状況を見て伝えることをいつの日かして欲しいと思っています。講話の中にもそういった思いを込めました。

1月19日は看護医療類型の課題研究発表会でしたが残念ながら出張のため聞くことができませんでした。また野球部が加東みらいこども園に出向き、交流を行いました。12月実施予定でしたが、本校に体調不良が多くてたことで延期になっていたものです。サンテレビのニュースウォッチではこの様子が取り上げられていました。そして1月20日は体育科の課題研究発表会。今年のテーマは日常生活にちなんだものが多く、良い内容で研究をしていました。「体育座り」の提案は私たち自身考えなくてはならない内容でした。まだスパイクといった道具にフォーカスを当てた研究もあり、普段感じた疑問



を追求することが大切だという講評もさせていただきました。その後退寮式。寮役員の引き継ぎでもあります。副寮長の笠井君が思いの丈を述べてくれました。寮で培った仲間との結びつきを大切に次のステージに向かってください。1、2年生も頑張りましょう。